

地区名 小合地区

今年度の取り組み	・地域福祉懇談会（6/19、1/29） ・なじらて訪問（7月、12月） ・歳末見守り事業打ち合わせ（11/20）、実施（12/19～21） ・小合小学校、小合東小学校4年生総合学習（サロン交流各2回） ・支え合いのしくみづくり周知（大鹿ふれあいサロン11/24） ・コミセンサロン（8/3） ・小合地区民児協認知症勉強会（3回）、住民向け認知症講座（12/18）
課題	・なじらて訪問(年2回)の半年で亡くなられた方や入所等で変動がある。訪問の頻度を増やすべきか。 ・自治会役員は働いているため、訪問が会長のみだったり、曜日が限られたりと制限がある。 ・家族と暮らしていても日中ひとりになる高齢者が多く、そういった方も対象となるといい。 ・コミセンサロンでは目的でもあるサロンのない地域の方の参加が少なかった。地元で開催されることが一番ではあるが、難しい地区もあるので工夫をして継続したい。 ・サロン運営は、高齢化や参加者減少等課題が多く、高齢者が運営するのは大変である。 ・高齢化に伴った車の免許返納も増えてきている。免許返納は必要なことでもあるが、足(移動)の問題が出てくるので、コミ協でも考えていきたい。
評価	・継続して見守り訪問をしていると対象者が年を重ねることでの変化が見えてきた。地域の状況も把握できる。 ・歳末見守りでは、民生委員だけでなく、より身近な近所の人との訪問なので、対象者の表情もとても良い。歳末見守りの際に渡す子どもたちの手紙はとても喜ばれている。名前が読めないこともあるので、フリガナがふってあると尚良い。 ・訪問を断っていた人にも声をかけ続けたことで了解してくれることがある。それが心と心の交流であり、見守りの大きな役割である。 ・小学校の総合学習によるサロンとの交流をきっかけに通常のサロンにも小学生が遊びに来てくれて、新たな交流が生まれた。サロンをやめることも考えたが、今後も継続することになった。 ・認知症講座では参考になったという声が多かった。今後は当事者・家族から認知症であることを言える地域づくりを地域(自治会、民生委員、サロン等)が一緒になって進めていけたらよい。 ・災害時の情報伝達を見直し、訓練を行った。地域の被害状況の周知(広報)をしてほしい。 ・自治会の募金活動を手渡しで行っており、これも見守りのひとつである。
活動の様子	
次年度へ向けて	・見守り訪問活動(なじらて訪問・歳末見守り)の継続 ・なじらて訪問の対象や実施回数等の検討 ・サロンのない地域の方の参加やノウハウを学ぶ場としてのコミセンサロンの継続と工夫 ・災害時の小合地区の被害状況の周知(広報)の検討 ・認知症について地域と連携した取り組みの計画 ・サロン運営における様々な課題に対する検討（支え合いのしくみづくり会議）

[参加者] 小合コミ協：阿部会長、野瀬山副会長、高橋副会長、今井事務局長

地区社協：＜自治会・町内会＞伊藤幹事(大鹿)、井村幹事(栗宮)、古川幹事(小屋場)、岡田幹事(梅ノ木)、小田幹事(出戸)、＜サロン＞鈴木幹事(大鹿)、吉田幹事(とき)、大竹幹事(子成場)

小合民児協：古田会長、渡辺副会長、田村副会長、内藤委員、小林委員、高橋委員、大橋委員

地域包括支援センターこすど：木村センター長 秋葉区社協：横山事務局長補佐、藤田